

第25回日本看護管理学会学術集会開催に向けて

学術集会長・叶谷由佳氏に聞く



来る2021年8月28日(土)、29日(日)に第25回日本看護管理学会学術集会が現地開催+Webのハイブリッド形式で開催されます。学術集会長の叶谷由佳氏(横浜市立大学医学部看護学科老年看護学領域)に、今回の学術集会の特徴や見どころを紹介いただきました。(本誌編集室)

学術集会テーマに込めた思い

今回の学術集会テーマは「持続可能な社会をリードする創造的看護管理」としました。

看護管理においてこれからどのようなことが必要かを考えたときに「持続可能」はとても大事なテーマだと思います。世界で課題となっているテーマですが、医療においても同様です。近年の災害や気候変動などは医療への影響も大きく、先の予測が難しい場面が増えてきたと感じています。そうした中で、今回の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大という未曾有の事態が起こりました。

しかし、私たちはどんなことがあっても医療を提供し続けなければいけないという使命があります。特に看護管理者は方針を出さなければいけない仕事であり、不安定な世の中でも旗を掲げてリードすることが求められています。今ある制度や常識がそのままでは当てはまらない状況もあると思いますので、先を読んで、クリエイティブ(創造的)に考え、組織の方向性を示していかなければなりません。

SNSでも情報を発信しています!

Facebook: 第25回日本看護管理学会学術集会
Twitter: @25janap
Instagram: 25thjanap

私は当時まだ数の少なかった大学院で看護管理学を学びました。大学院修了後も看護管理の研究でいくつもの病院をフィールドにさせていただき、看護管理によってこんなにもケアや働き方が違ってくるのだと痛感してきました。

その後、看護管理学だけでなく、健康情報分析学、在宅看護学、老年看護学などの教員を務めていますが、常に看護管理学で学んだ「先を読む」視点でこれからの医療状況やニーズを見据えてきた姿勢は一貫していると思っています。

看護師は病院の中で最も人数が多く、患者さんにとって最も身近な存在です。患者さんのニーズを最も分かっているのも私たち看護師です。だからこそ医療現場をリードする使命を背負ってほしい、それができるのが看護管理者の専門的な立場だと考え、今回のテーマを決めました。

学術集会の概要

開催方法は、2021年8月28日(土)、29日(日)に現地開催とオンラインでのライブ配信とし、その後も9月27日(月)までのオンデマンド配信期間を設けています。

COVID-19の影響で医療系の学術集会はオンライン開催が増え、日本看護管理学会も昨年はオンライン開催となりました。しかし、看護管理者は、隣の病院で何をやっているか? 他の看護管理者はどのようにやっている? ということを知りたいためネットワークを欲しています。そのため現地での開催はディスカッションの場、交流の場として大変ニーズが高いです。

一方でオンライン開催の良さも見えてきています。さまざまな事情で、当日会場に行けないという方も、オンラインであれば参加できますし、オンデマンドならば自分の都合のよい時間を使って視聴することができます。これまでの学術集

会で見られたような会場が満席で人があふれていたり、同じ時間帯に見たいセッションが重なっていたりするという課題にも、オンデマンドで対応できます。昨年もとても好評で、期限ギリギリまで視聴する方も多かったようなので、今年はオンデマンドの配信期間を長めに設定しました。

現地開催とオンラインのいずれの良さも大切にしたいということで、今回はハイブリッド開催としましたので、多くの方に自分の関心と都合に沿った形でご参加いただければと思います。

学術集会の見どころ

COVID-19 関連企画

今を語る上でCOVID-19のことは無視できないだろうと考えています。

まず、政策としてどのように考えるか、また医療界はどのように動かなくてはいけないのかという視点で、神奈川県知事の黒岩祐治氏と、衆議院議員の富岡勉氏に登壇いただきます。

また、コロナ禍で看護職の重要性が社会で再認識されたと感じています。看護が社会に貢献し、これから持続可能な看護を提供していくために何が必要なのか、日本看護協会会長の福井トシ子氏と国際看護師協会会長のAnnette Kennedy氏に講演いただきます。

ほかに、COVID-19に関連したさまざまなセッションを開催予定です。レジリエンスの視点で中島和江氏(労働者健康安全機構)に座長をお願いしシンポジウム「COVID-19禍で発揮されるリーダーシップとレジリエンス」を企画しているほか、現場の第一線で対応に当たった方々から実践の報告とともに、その経験や知見をどのように今後活かしていくかについて、学術集会全体を通してディスカッションしていただきます。



少子高齢社会に向けた アカデミックな教育講演

私の研究テーマでもあり、大きな課題になっている「少子高齢社会」について、「健康の社会的決定要因に着目したマネジメントとゼロ次予防—持続可能な少子高齢人口減少社会に向けて」をテーマに、近藤克則氏（千葉大学）に講演いただきます。

また、子育てと介護のタイミングが重なり、介護する人が3人、4人となるような状態になることが増えていくいわゆる「ダブルケア」について、社会学的な視点で先駆的な研究をされている相馬直子氏（横浜国立大学大学院）にお話しいただきます。

節目の25回を迎え学会の将来を考える

今回で学術集会は25回目となり、四半世紀という節目を迎えることになりました。それを踏まえて前期の理事会内の「将来構想委員会」で話された「これからの看護管理学会のあり方」について改めてディスカッションの場を設けます。「日本看護管理学会の未来を語る」と題した特別企画がそれで、上泉和子氏（青森県立保健大学）、鶴田恵子氏（聖隷クリストファー大学）、別府千恵氏（北里大学病院）が登壇します。

2つの公募企画と「新しい仕事づくり」

新しい試みとして「①COVID-19禍における看護教育の発信・交流」「②持続可能な効果的・効率的看護提供体制」についての2つの「公募企画」によるパネルディスカッションを行います。

表 学術集会の主なプログラム（詳しくはウェブサイトをご確認ください）

学術集会長講演

持続可能な社会をリードする創造的看護管理：叶谷由佳

シンポジウム

- ・看護の本質と管理：川村佐和子（聖隷クリストファー大学）、寺崎仁（東京女子医科大学）、白鳥義宗（名古屋大学医学部附属病院）、井部俊子（長野保健医療大学）
- ・COVID19 禍で発揮されるリーダーシップとレジリエンス：江守直美（福井県看護協会）、高橋弘枝（大阪府看護協会）、鈴木美智子（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
- ・スラッシャー時代——20年先の働き方を考える
- ・これからの時代の看護職の新しい仕事づくり：菅原由美（キャンパス）、川添高志（ケアプロ）、前田和哉（ハレ）、喜多悦子（笹川保健財団）
- ・リアルワールドデータ（RWD）を活用した看護における臨床エビデンスの創出：窪田和巳（横浜市立大学）、森田光治良（筑波大学）、森岡典子（東京医科歯科大学大学院）、伊藤沙紀子（大阪大学大学院）

パネルディスカッション

- ・持続可能な効果的かつ効率的看護サービス提供体制の在り方：吉川久美子（日本看護協会）、浅香えみ子（東京医科歯科大学医学部附属病院）、宮下恵里（済生会熊本病院）、赤間仁見（菊名記念病院）
- ・出会いの広場：持続可能な社会をつくる看護職の新しい仕事プレゼンテーション大会
- ・続・身体抑制は誰のため？—本当にやりたい看護とは：小藤幹恵（石川県看護協会）、田中かおり（定山溪病院）、須藤久美子（飯塚病院）
- ・【情報発信・交流】COVID-19 禍でも現場の学びを止めない！実践の工夫と取り組み：川本利恵子（湘南医療大学）、片山典子（湘南医療大学）、田中早苗（大和高田市立病院）、長坂奎英（キッコーマン総合病院）、米田恵美（キャンパス池田）

NA REPORT

②では「出会いの広場：持続可能な社会をつくる看護職の新しい仕事」をテーマに公募したところ、さまざまな分野で活躍している看護職が手を挙げてくださり、1つにおさまりきらず、2つに分けて行う予定です。また、そのパネルディスカッションに引き続き、シンポジウム「これからの時代の看護職の新しい仕事づくり」も行います。

なお、そのシンポジウムの座長を務める加納佳代子氏（多摩病院）は、「講談看護師 加納塩梅」としての活動もされています。そこで市民公開講座（オンデマンド配信）で創作講談を披露していただきますので、ぜひご視聴ください。

参加者へのメッセージ

先が読めない状況の中で意思決定をしなければならない看護管理者の皆さまには、ぜひそれぞれの立場で経験したこと、工夫したことなどを前向きに次に生かして、本当に持続可能な、創造的な社会をつくっていただきたいと思います。そのために皆さんの知恵を共有する機会として、この学術集会を活用していただければ幸いです。

皆さまのご参加をスタッフ一同お待ちしております。

学術集会ウェブサイト

<https://site.convention.co.jp/25janap/>